



建築家が不動産事業に進出 新感覚の住宅を設計し販売

代表取締役 唐澤政彦さん

不動産会社に長年勤務した後、30歳を過ぎて工務店に転職。40歳過ぎに一級建築士の資格を取得、独立して2010年、「唐澤建築設計一級建築士事務所」を設立。2017年に法人化。宅地建物取引士。



建物状況調査で、随時住宅の劣化や欠陥の有無、改修すべき箇所など見極めることが可能。

建物状況調査も事業化 中古住宅の流動性向上

住む人の夢を形にする一級建築士がハウスメーカーの規格品はない魅力を備えた新感覚の建売住宅を販売する不動産事業に乗り出した。「株式会社唐澤建築設計」の代表取締役で宅地建物取引士の国家資格を併せ持つ唐澤政彦さん。2018年4月から中古

住宅の売買時に建物状況調査（インスペクション）の結果の概要などの説明が義務付けられたことを受け、建物状況調査も不動産事業の一環に据えた。唐澤さんは、不動産会社で勤務していたとき、マンションの無味乾燥な設計に疑問を抱き、建築士になる決意を固め、30歳を過ぎて工務店に転職。現場で働きながら実務を覚えた後、40歳すぎて合格率10%



お客様が思い描いている夢や理想を一緒に形にするプロセスを大事にしながら、個性的な居住空間を構築していきたいと思っています」

こうした理念と独創的な設計技術は、住宅に止まらず、店舗、オフィスの設計、マンションなどのリノベーション、商業施設やオフィスの内装設計に投影され、信頼を集めてきた。その延長線上で新たに始めた不動産事業は、かつて身を置いた不動産業界のネットワークを活用し、土地の取得から設計、施工監理、販売まで力を発揮するワンストップ体制で推進し、独創性で住宅市場に新風を吹き込む。

建物状況調査は、建築士法で建築士の業務と定められた、建設工事が設計の通り実施されているかを確認する工事監理の知見を生かし、宅地

建物取引業法の改正を機に事業化したものだ。

「建物状況調査は、中古住宅の劣化状況、欠陥の有無、改修すべき箇所などを見極める業務です。中古住宅に対する消費者の不安を解消して、歐米に比べて低調な中古住宅の流通を活性化させることが狙いでですが、今後増える調査に対する需要に応えていきたいと思っています」

（ライター／斎藤絢）

株式会社 唐澤建築設計

からさわけんちくせっけい

03-5935-44 国 karasawa@kac-tokyo.jp

④ 東京都練馬区南大泉3-12-11

http://www.kac-tokyo.jp/

前後の難関、一級建築士試験に合格し、独立した信念の建築家だ。この歩みの中で形成してきた建築理念は明確だ。「家づくりというのは、家を建てられてからの人生というなものであり、家を建てて渡してそれで終わりではありません。住む方が紡いでいく人生に責任を負っているのです。

